

## 平成29年度 千葉県高校総体サッカーの部 総評

平成29年6月10日(土)から、11日(日)、17日(土)、18日(日)、の日程で千葉県高校総体サッカーの部決勝トーナメントが行われた。先に行われた一次トーナメントの結果を踏まえ、15チームが全国総体千葉県代表の2枠をかけてトーナメント方式で試合を行った。準々決勝までは、人工芝のグラウンドを持つ高校の協力を得ながら全ての試合が人工芝のピッチで行われた。

多くの関係者の方々の協力により進められた千葉県総体であるが、市立船橋、翔凜、日体大柏、流通経済大柏がベスト4に進出し、準決勝、決勝が千葉県立柏の葉公園総合競技場にて行われた。

### <準決勝第1試合(市立船橋 対 翔凜)戦評>

市立船橋は、決勝トーナメント2回戦東京学館に3-0で勝利し準決勝に進出した。一方、翔凜は、1回戦八千代松陰に3-1、2回戦関東大会出場の敬愛学園にPK戦の末4-3で勝利し準決勝に進出した。

市立船橋は1-4-1-4-1システムを採用し、アンカー⑥桧山と2CBでビルドアップし、相手ゴールに向かって前進しようとする。対する翔凜は1-5-2-3システムを採用し、CB④遠藤を中心として4バックと5バックを状況によって使い分け、前線からの追い込みで市立船橋に良い形でボールを持たせない。ボールを奪うとSB⑥高橋を高い位置に押し出し、変則的に1-4-4-2や1-4-1-4-1になり、⑩マティウスを起点に攻撃を展開しようとする。それに対して、市立船橋はシンプルに12有田や11福元をターゲットにボールを配球し、ポストプレーやセカンドボール奪取から攻撃のきっかけを作る。拮抗したゲーム展開が続いたが、次第に市立船橋が切り替えのスピードや運動量で優位にゲームを進め、インターセプトからの縦パスや相手のミスからの2次攻撃、セットプレーなどから得点を重ねた。試合終盤、翔凜は⑩マティウスのドリブルや④遠藤のロングスローなど市立船橋ゴールに迫ったがゴールを奪うことはできず、市立船橋が4-0で勝利した。

松戸市立松戸高等学校 瀬和 真一郎

### <準決勝第2試合(日体大柏 対 流通経済大柏)戦評>

日体大柏は、1回戦八千代に2-1、2回戦暁星国際に2-1で勝利し、準決勝に進出した。一方流通経済大柏は、1回戦千葉敬愛に1-0、2回戦専修大松戸に2-0で勝利し、準決勝に進出した。

日体大柏、流通経済大柏ともに1-4-1-4-1システムを採用し、1トップを起点にして攻撃を展開しようとする。流通経済大柏は精度の高いキックやGK薄井の飛距離あるキックでボールを前進させ、制空権を握り優位にゲームを進める。11安城を中心に、⑦鬼京、14宮寺のアーリークロスや積極的な仕掛けで人数をかけずにゴールを脅かしながら4宮本がバランスをとり守備を安定させる。セットプレーにおいても、②近藤、⑩菊池の精度の高いキック、②近藤のロングスローで多くのチャンスを作る。日体大柏は、流通経済大柏の攻撃にアンカー⑧有坂がDFラインに吸収されるなど、中盤の選手を前に押し出してプレスをかけることができない。攻撃時には14松田がDF間のギャップでボールを受けようとするが、中盤の押し上げが遅く効果的にボールを前進させることができない。後半、前線の選手の距離を近くして仕掛けやコンビネーションでゴールに迫ろうとするが、流通経済大柏の安定した守備を崩すには至らない。流通経済大柏は、人数を揃えたバランスの良い守備と、前線の選手のドリブルやクロスなどシンプルな攻撃で攻守を両立させる。攻守において終始ゲームをコントロールした流通経済大柏が1-0で勝利した。

千葉県立八千代高等学校 堤 誠太郎

## <決勝（市立船橋 対 流通経済大柏）戦 評>

決勝は昨年度と同カードの組み合わせとなった。昨年度全国総体の決勝でも対戦している両校は、準決勝とメンバーを入れ替えて決勝に臨む。

市立船橋は1-4-1-4-1システムを採用し、2CBが距離をとってSBを高い位置に押し出したポジションで、アンカー④平川がCB間でボールを引き出しながらボールを落ち着かせる。SBの選手が幅をとった状態で、相手の守備を広げさせ、開いたギャップで15町田、14齋藤がボールを受けようとするなどしてサイドと中央を使い分けながら前進を試みる。対する流通経済大柏は1-4-1-4-1システムを採用し、④宮本がCBとマークの受け渡しをしながら、DFラインの前のスペースを埋めて中央にボールを入れさせない。攻撃時は前線にシンプルにボールを配球し、18後藤のポストプレーや22笹岡のドリブル突破、⑨池田の背後への飛び出しを中心にゴール迫る。市立船橋はサイドを起点にしてゴールチャンスを作る機会を伺い、⑧井上のドリブル突破や⑦杉山のオーバーラップからクロスボールを配球する。⑦杉山のクロスボールから市立船橋が先制するが、後半になると流通経済大柏は11安城、10菊池、21宮本を投入し、前線からのプレスでボールを奪取し、ショートパスとドリブル突破、クロスボールでゴールチャンスを作る。後半18分、流通経済大柏はクロスボールの攻防からPKを獲得。④宮本が確実に決めると、1分後13佐藤のコーナーキックから20近藤がヘディングで合わせて立て続けにゴールを奪う。市立船橋はDFラインとアンカーでビルドアップを試みるが、流通経済大柏が連動したプレスでボールを奪う機会が多くなる。切り替えとプレッシャースピードの非常に高いゲームであったが、流通経済大柏が押し込む時間が長くなり、結果2-1で流通経済大柏が連覇する形で千葉県総体サッカーの部の優勝を決めた。

昨年度同様、準優勝が市立船橋、優勝が流通経済大柏となり、平成29年度千葉県総体の幕が閉じた。両チームは7月29日（土）から宮城県で行われる南東北総体2017サッカーの部に出場する。

千葉県立八千代高等学校 堤 誠太郎

## <総 評>

15チームによるトーナメント方式で行われた本大会だが、出場チームは県リーグ1部、2部に所属するチームが多くを占める。各チーム、チームコンセプトや自チームの選手の特徴、相手チームの分析など非常に多くの要因を踏まえ、ベストな戦い方を選択して大会に臨んでいると感じる。中央学院や専修大松戸、敬愛学園のようなテクニクに重きを置くチーム、東京学館のようなゴールに直結するプレーに重きを置くチームがあるように、チームコンセプトのしっかりとしたチームが決勝トーナメントに出場している傾向がある。また、相手の良さを消しながら、自チームの特徴をゲームで発揮するための、相手チームの分析も非常に高度化している。その中で、ロングスローを攻撃のバリエーションに取り入れているチームが多くなり、各チームGKを含めたロングスローへの対応も重要なファクターになっている。翔凜は2部リーグに所属していながら、トーナメントではベスト4に入る強さを見せた。高さのあるCBで相手攻撃を跳ね返し、⑩マティウスをポイントとした攻撃が機能した。日体大柏は関東予選においては、突出した強さを見せた。しかし、関東大会本大会での主力選手の怪我也も響き、千葉県総体では本来の力を発揮できなかったのではないだろうか。能力の高い選手が揃っているので、選手権大会では十分な巻き返しが期待できると考えられる。近年、市立船橋と流通経済大柏2チームの決勝の組み合わせが続いている。この両チームを脅かすチームの出現と、各チームの育成・強化で、今後の千葉県サッカーがさらに発展していくことを期待する。大会の運営については、会場役員や審判、記録の方々を始め、多くの方々のご協力によって進められた。大会運営に携わっていただいた全ての方々に感謝の意を表すとともに、市立船橋と流通経済大柏が昨年のように全国総体の決勝で相まみえることを期待し、平成29年度千葉県総体の総評とさせていただきます。

千葉県立八千代高等学校 堤 誠太郎